

まずはこのような素晴らしい機会を与えて頂き、企画・協力して下さった方々に心から感謝いたします。今回、スウェーデン・マルメ研修に参加させていただき貴重な経験がたくさんできて本当に良かったです。

マルメ大学で5日間のレクチャーをうけ、明日から使える知識やテクニックのみではなく、簡単には表現できないほどの多くの学びや気づきを得ることができました。研修に参加する前、私は漠然なイメージで予防先進国であるスウェーデンの歯科医療には欠点ほとんどなく、国民も歯科に対して非常に高い意識を持っていると考えていました。実際に国民の口腔の健康レベル、システムや予防に対する考え方の違いは大きいものでした。しかしながら、日本と歯科医療制度は違えど、移民の問題などもありスウェーデンにはスウェーデンの課題があり、また国民も最初から歯科に対して意識の高い人ばかりではないことがわかりました。歯科医療従事者自身が意識を高め、政府や企業と協力しながら国民に対して口腔の健康の重要性を伝え続けることの重要性を再確認することができました。

また、同じ教育年数の歯科衛生士ではありますが、教育内容の違いや業務範囲の違いなどから、スウェーデンと日本の歯科衛生士の差は大きく、レクチャーをうけながら焦る気持ちもでてきました。日本では”歯科衛生士は歯のお掃除をしてくれる人。歯科助手と歯科衛生士って同じようなものでしょ？”という認識が当たり前であるため感覚が麻痺してしまっていますが、実際のところは歯科衛生士に求められることはとても多く、今後その範囲は広がっていくと確信しました。プロとしての自覚をしっかりと持ち、知識やテクニックの向上をさらに目指していく必要があると強く感じました。同時に、この海外の歯科事情を専門学校在学中に知る機会があったらよかったのに…とも感じました。日本の歯科衛生士の教育内容が全面的に悪いわけではありませんが、資格を取得することだけを目的とするのではなく、もっとグローバルな視点で物事を考えられるような歯科衛生士を育成できるようにPBLを取り入れたり、教育内容を見直していく必要はあると思いました。

今回の研修では全国の歯科医師、歯科衛生士、歯科助手の方々と交流できたこともとても良い刺激となりました。一人だけでは現在の日本の歯科医療を変えることはできませんが、全国の同じ志を持った歯科医療従事者で協力し、日々の診療などを通して啓蒙活動を続けていけば日本国民の歯科への意識が高まり、日本政府や企業の歯科への意識も高まり、歯科医療の改革に繋がると思います。

今後も日吉歯科の診療モデルや今回学んだことを表面上で単純に真似るだけではなく、根底にある哲学的な部分もしっかりと理解を深めながら日々の業務に取り組んでいきたいと思いました。